

石綿（アスベスト）含有建材の特徴

建 材 名（一般名） （通 称）	石綿含有壁紙 一般にメーカー名称が仕様書に記述されていた。「アスベスト壁紙」、又は総称して「不燃クロス」と呼ばれている。
---------------------	---

規 格 等

- ・ JIS A 6921 壁紙

製造期間

- ・ 製造開始は、1969 年である。
- ・ 製造終了は、1991 年である。

建材の特徴

○性質、寸法、形状など

- ・ 石綿含有壁紙は、アスベスト紙にビニルフィルムを合わせたもので、不燃材料としての大臣認定を取得したものである。
- ・ 厚手の石綿含有壁紙は、その厚さに応じて表面に凹凸などの加工が可能である。
- ・ ビニル壁紙（ビニルクロス）に比べ、色柄の種類は少ない。
- ・ 1970 年から 1987 年まで、「アスベスト壁紙」、「無機質壁紙」などの呼称で製造されていた。（なお、1988 年以降、現在まで製造されている無機質壁紙の原反（原反とは、未加工の状態でロール状に成形されたものをいう。）は総て水酸化アルミニウム紙で、アスベストを含まない建材である。）

○主な施工部位、使われ方など

- ・ 石綿含有壁紙は、総て不燃材料として出荷されていた。
- ・ 湿式方式の壁に比べて、修繕、張替えが容易にでき経済的でもあることから多用されている。
- ・ 建築基準法に基づく内装制限により「不燃材料」を要求される避難階段、通路、エレベータホール等の壁面、天井などに使用されている。住宅では、台所やユーティリティ等の火気使用室に使用されている頻度が高い。
- ・ 他の建設用ボードに貼り合わせて使用されたこともある。

・ 識別法の例

1987 年以前竣工の物件では、ゼネコン、工務店等施工者の設計図書中の内装仕上げ表あるいは施工仕様書、住宅メーカーの施工仕様説明書等に、「無機質壁紙」、「不燃壁紙」、「不燃第 0005 号認定壁紙」、「アスベスト壁紙」等と記述されている。

同じく 1987 年以前竣工の物件で、壁面の隅等に「不燃第 0005 号無機質壁紙」と記され、金色地に赤色で印刷された、3cm 四方のラベルが表示してある場合がある。

表面から目視では分かりにくい。隅など部分的に一部の化粧層を剥がし、下地層がグレー色の場合はアスベスト原紙の可能性が高い。ただし、下地そのものが「石綿スレート」等の使用例もあるので、その場合は下地とも処理に注意を要する。

リフォーム（メンテナンス）関連

- ・ 石綿含有壁紙は、表面をビニルフィルムとしているため日常的に水拭きが可能である。